令和５年度　第３回我孫子市布佐中学校区の学校の在り方検討委員会　議事録

開催日時　令和５年９月 12 日　午前 10 時から正午まで
会　　場　我孫子市水道局大会議室
出 席 者　委員 12 名、事務局 11 名　（傍聴人３人）

【本議事録の表記に関して】
　議事中に出てくる学校名等について、次のとおり略記する。
布佐小学校：布小
布佐南小学校：南小
布佐中学校：布中
布佐小学校、布佐南小学校、布佐中学校の総称：三校

１　開会
（省略）

２　委員長あいさつ
それでは、第３回目の検討委員会を開催したい。連日暑い日が続いているが、先日、布中の体育祭が行われ、良い体育祭と伺った。今後、市内の中学校でも体育祭が行われるが、一時の蒸し暑さは少し秋めいてきた。熱中症やインフルエンザ、コロナ等がまだ流行っている中でお集まりいただき感謝申し上げる。本日は前回の続きで「その他」の視点について意見を伺いたい。前回も多くの意見をいただいたので、本日も積極的な意見を話していただきたい。始めに、その他の項目が５つあり、事務局からの説明後、項目ごとに意見をいただき、その後全体を通しての検討を行っていきたい。

３　各検討視点でのメリットデメリットについて
（委員長）１番目の「教育課程等」について事務局からの説明を願う。
（事務局）①②③の施設形態におけるメリットデメリットを説明（以下、別紙資料を用いる場合も含め「事務局説明」とする）。

（委員長）事務局の説明をまとめると①②の形態だと連携しにくいというところがデメリットと感じる。③では協議する日程調整がしやすいとか柔軟に対応できるというところがメリットとして挙げられる。教育課程について意見、質問があればお願いしたい。
（委員）布小、南小ともそれぞれの学校で特徴があり、地域の特徴として子どもたちの教育を考えていると思う。今の状態で、児童の人数が増えればもっとこういうところができるなど、何か具体的に見えているものはあるのか。自身は南小を見ていて、子どもたちの様子もとても良く映り、校長も児童一人一人を見ていると感じる。しかしながら、児童数という面から見た場合、今の段階で何か思うことがあれば、両校の校長に話していただきたい。
（委員）単学級のメリットについて、今の布小は十分あると思う。少人数のため 30 人の児童に対し、1 人ずつ目をかけていくことができる。
以前の検討委員会でも話したが、人間関係が固定化されることにより、６年間の学校生活での成長という点では懸念がある。もう一つは、多様な考えを持つ子どもたちがいるため、児童数が多くなれば教育効果が上がるというメリットはあると考える。
（委員）本校も児童数が少なく、児童に丁寧に声をかけられ、子どもたちも安心感はあると思う。しかしながら、学習の多様性という意味では、授業の中での考え方の広がりが少ないと感じる。児童の人数が多ければ、多様な考えを持つ子どもたちがいるが、６年間固定での人間関係では子どもたちの立ち位置も決まってしまう場合がある。教諭も子どもたちのいろいろな可能性を引き出しているが、学習の多様性という意味では少ないと感じる。複数学級があれば、教諭もどのように授業を行うかなどを話し合いながら行うことができるが、単学級では１人で決めることになる。その力量を高めるという意味では、各教諭が力を高めてはいるが、どうしても単学級で１人の教諭だと限界があり、難しい部分もある。
（委員長）教育課程を編成するうえで、一番大きいのは授業であり、あるいは行事というところになる。子どもが増えた場合のメリット、デメリットもあると思うが、事務局の方で補足することがあれば説明を願う。
（事務局）義務教育学校や、併設型小中学校になった学校の特徴として、合同での行事開催など、児童生徒数が増えれば、やはりそこにも多様性が生まれて

くる良さはある。教育課程上においても、中学校相当の学年の子どもたちが下級生の小学校段階の子どもたちと一緒に学ぶ機会が増える中で、思いやりや下級生の面倒を見るなどそのあたりが充実すると考える。
（委員長）児童生徒数が増えれば、行事の組み方や授業の作り方も当然変わってくる。そういう意味では大きなメリットが出てくると考える。
例を挙げるが、運動会においてレース数がすぐに終わってしまう学年が、人数が増えることで先生方の工夫がたくさん出てくると思う。また、合唱についても人数がそろわないとできないため、学校教育目標にどうやって近づけていくかと考えると、授業だけでなく、今述べたような行事の運営等についても検討していかなければならないと思う。
（委員）以前から、この会議の中で各校長先生の話には出ている。子どもたちの力をもっと伸ばしたいが、人数が少ない中での残念さを感じる。
三校が一緒になったときには、この多様性を生かすような授業をしていかなければならないし、先生方の話を伺いとても勉強になった。
（委員）教育課程から見た場合、児童生徒数が少ないためにゆとりのある環境ではないと感じる。学校生活の中で少人数が続くとコミュニケーション不足もあると思うし、児童生徒数が減るということは先生の数も限られ、先生が病気になりいろいろな都合で出られない場合は、管理職の先生方がフォローするような形になると思う。また、PTA 活動においても児童生徒数が少なければ役員もすぐに順番が来るという話も以前伺った。物の考え方も昔と違って徐々に変わってきており、それに対応していかなければならない。私たちはこのような現状に対し、ある程度の人数の規模を持ち、子どもたちの学力の向上や部活動等、学校生活の中で喜びを見つけられるような学校を創っていく必要があると思う。
（委員長）人数が少ないからゆとりがあるということではなく、捉え方の問題だと思う。学校生活においても、大人数の中でいろいろな方と関わり合いながらそれぞれの良さを伸ばしていけば良いと思う。そういうところが子どもたちにとっては大きな経験となり、実感するところである。
（副委員長）我孫子市は全校で小中一貫教育の環境が整っており、それに先立って布佐地区は小中一貫教育を行っている。先ほどの事務局説明でも小中一貫

教育についても触れていたが、やはり小中一貫教育の主な目的の一つとして学力の向上があると思う。これについて布佐地区の現状を話していただきたい。
（事務局）布中区においては、平成 26 年度から先行して小中一貫教育に取り組んでおり、特に地域との密着した学習ということで取り組んでいる。
学力というと、どうしても数字の面から見てしまいがちである。布中区でこれまで培ってきた子どもたちの変容という部分では、先日、今年度初めての中学校の布佐カリキュラムの授業を参観してきた。小学校段階で地域について学んできた子どもたちが中学生になり、自分たちで課題解決学習として地域についての学びを深めていき、最終学年の中学 3 年生では、自分たちの地域を活性化したい、私たちの町をこれからどうしていくかということを提案していた。生徒一人一人が、自分の考えを仲間と話し合い、その中で提言をまとめていく姿、それがまさに布中区でこれまで小中一貫教育で培ってきた学力の向上の姿として捉えている。
（副委員長）布佐地区は特に、小中一貫教育の推進が充実していると思う。
前回の検討委員会で議論した子ども・保護者・地域からみた視点と重複するかもしれないが、やはり布佐地区の現状は小中一貫教育を推進しようということである。検討する施設形態の中で、三校のままで良いのか、それとも一体化の校舎を造るべきなのかということでは、小中一貫教育の推進を考えたときに大きな議題である。皆さんの意見もお聞きしたい。
（委員長）小中一貫教育という視点からの学力向上についての質問であった。
検討する施設形態の①②③のそれぞれの設置の仕方がある中で、小中一貫教育の進み具合やあるいは学力向上に対する成果等、これらをどのように受けとめて考えていくべきか、ということでよろしいか。
（副委員長）前回の検討委員会で議論した「児童生徒」視点の中で、三校を一体型小中学校の校舎とする場合、デメリットとして記載された項目があったが、小中一貫教育という観点から見たときに、デメリットではなく、メリットとして考えられるのではないかという観点からも考えていただきたい。
（委員長）小中一貫教育からみた場合、③に記載されているデメリットがメリットに変わるものがあるのではないかという意見であった。
検討している三つの施設形態の中で、小中一貫教育の推進の仕方として、一番メリットが大きいという視点があれば説明を願いたい。

（委員）昨日、布小では小中一貫教育の一つの「Ａｂｉ☆小中一貫カリキュラム」という授業があり、外部講師を招いて実施した。布中は体育祭を行った休校日のため出席できなかったが、南小は校長をはじめ他の教諭も参加していただいた。施設一体型になればこのようことがないので、一体型になるメリットはだいぶあると感じる。
（委員）布小において地域学校協働活動では、今年度４回目の読み聞かせを実施した。子どもたちも一生懸命聞いており、読み聞かせのコーディネーターに対し６年生はきちんと挨拶もでき、感動もしていたようだ。今年度は８回の読み聞かせ会を予定している。南小からも依頼を受けたため、昨日の「Ａｂｉ☆小中一貫カリキュラム」の時に南小校長とも早速話を進めたところである。布佐小中の子どもたちが一緒に聞いてくれれば、さらにいろいろな形で布佐の歴史を学べると思う。
（委員長）現状の中でいい形で行われているものを発表していただいた。
小中一貫教育の視点で言うと、布佐だけではなく他の学校でも行っているが、現状の課題があれば事務局から説明を願いたい。
（事務局）市内各中学校区では工夫を凝らして小中一貫教育を実施している。例を挙げると「小中一貫の日」というものがある。中学校に小学６年生が登校し、中学校入学前に中学校生活について学ぶという機会がある。生徒数が多い我孫子中学校区は３つの小学校（事務局注：我孫子第二小学校、我孫子第三小学校、高野山小学校）から我孫子中学校に通うため、各校の６年生の人数が多く、なかなか日程の調整が難しいところがある。その点、布中区では小中一貫の登校日も年３回予定している。南小からはバスを利用しての参加となるため、その点においても施設が分離されている状況は大変な面も感じる。
（委員長）市内中学校区での小中一貫教育もいろいろと行われているが、施設形態の①でもデメリットとして記載されている。日程調整や時間確保がとても大変だということを伺ったが、やはり小中一貫の登校日などを実施した分の成果は、校長や事務局側からの説明のとおり良い成果として出てきている。そういうことでは、三校を一体型小中一貫校にすれば進めやすく、子どもたちの学力向上にも繋がってくるのではないかと思う。

（委員）布中区での学力の質問をしたい。以前、布中の保護者から聞いた話だが、学力テストでの点数では我孫子市の学力は西高東低という話を伺った。現在の数値としてはどのようか気になるのでお願いしたい。
（委員）学力テストの具体的な数値については公表を控えさせていただきたいが、布小の傾向としては６年間の動向を見ると最近は右肩上がりの傾向である。児童の学力も非常に良くなってきているが、それは子どもたちの関係と教員の指導力の部分も大きいと感じる。数十年前は学力が低いなどの話もあったかもしれないが、今のところは右肩上がりに学力も推移している。
（委員長）東葛飾管内でも布中区のように小規模な学校があるが、やはり子どもたちの実態で大きく変わってくるものである。自身も東葛飾教育事務所に勤務していた経験があり、いろいろと検証し小さな学校が学力を上げているところを見学したことがある。その小中学校は近隣に位置しており、中学校の英語教員が小学校５年生から中学校３年生までを一貫して指導していた。どのような要因で学力が向上するかということは、なかなか難しいところである。
（委員）先ほど教員の指導力という話をしたが、自身の経験からも、教員の力を上げるためには学年１つの学級を１人で指導するよりは、2 つの学級で切磋琢磨した方が指導力の向上が見込まれる可能性は高いと考える。
（委員長）小学校の教科担任制についても児童の人数が少ないと難しいということもあるが、クラス数が増え教科担任制ができるという意味では切磋琢磨することができ、児童数が多い方に越したことはないと思う。
２番目「児童生徒数推計」について事務局の説明を願う。
（事務局説明）
（委員長）令和 10 年度までの児童推計値が出されているが、ご意見あるか。
（委員）南新木１、２丁目の住所は南小学区であるが、新木小に学区外就学している児童もいる。家が建ち住民が増えても、南小に通わなければ人数が増えることはない。できれば南新木１、２丁目の児童数の推移を算出していただきたい。
（事務局）南新木１、2 丁目の住所だと南小の学区であり、３、４丁目の住所だと新木小の学区である。委員から質問があった南新木１、２丁目の児童数の推計は次回の会議で報告したい。

（委員長）例えばスクールバスを出す議論があったが、柏市手賀地区の小学校では、学区の考え方をオープンにして柏市内全域からの通学を認めている。スクールバスを運行して対応をしているところもある。今後、布中区も柏市のような方策を視野に入れていくことはあるものか。
（事務局）そのような方向についても視野に入れて検討していきたい。
（委員長）柏市のような方策を行うと、児童数が増えていくということも考えられる。児童生徒数の推移については、南新木 1、2 丁目の子どもたちの状況がわかる資料を次回に提出ということでお願いしたい。次に３番目「施設等コスト面」について事務局から説明を願いたい。
（事務局説明）
（副委員長）校舎の建設費におけるコスト面について説明を伺ったが、建て替えの時期となると現時点では不透明ということである。我孫子市内、小中学校が 19 校ある中で、老朽化した校舎は我孫子地区あるいは湖北地区それぞれの地域にも古い校舎が存在する。布佐地区を考えた場合、校舎建設に対するコストは三校一体型の方が一番低額であることは理解できる。ただ、建設時期については、市内全体をみるとどうなるのかと疑問がある。自身が心配するのは、布中区の建て替えの時期である。市内全体からみた校舎の老朽化を鑑みると、いつから建設ができるものかが不透明だと推測する。
（総務課長）それぞれの学校毎の老朽化による痛み具合や、建築年月日が各々異なるため、今回の資料で提示した【パターン 1】（別紙資料参照）でも、三校を同じ時期に一遍に建て替えるものではない。
（委員長）市内の小中学校は多くあり、建て替えの順番についても優先順位がつけられるということである。
（委員）資料で確認したいところがある。【パターン 1】で三校とも適正規模に沿って現在地で建て替えの場合であるが、布小床面積が 4,900 ㎡、南小床面積が 4,300 ㎡とある。算定根拠は、現在のものをもとに余裕教室を除いたということであるが、布小と南小の面積の差は 600 ㎡ある。南小は校舎面積が少なく済むという試算であるが、先ほどの児童生徒数の推計としては、南新木地区の方々が増え、南小の方が人数増の推計であった。児童数生徒数から施設面積に対する積算は難しいものである。比較検討する上では、どのようにして精度を上げていくというのが重要と感じた。この算定根拠について伺いたい。

もう一点は建て替え単価である。説明の中では、令和３年度に成田市と船橋市の校舎建て替えを基に㎡単価当たり 35～36 万円という試算を伺った。新しく建設した２市の学校規模は分からないが、特別教室や体育館、給食室等は、坪単価は高くなると考える。逆に教室については体育館や給食室等と比べると単価としては安くできると思う。教室数が少ないと校舎全体からみた建設費が高騰するのではないかと思うため、建設費に対する考え方が重要になってくる。
（総務課長）一つ目の算定根拠は、委員が話したように児童数の推移に応じた教室数を想定し細かく計算すべきであると考える。先ほど「児童生徒数の変遷等」資料で提示しているが、将来の児童数とは今現在住んでいる方が年齢を重ねて小学校に入学するという想定で作成している人数である。この人数を根拠に教室の設定をすることは難しいものがあり、事務局の資料としては大まかな概算で作成しており、校舎を建設した場合のコスト面でのイメージを持っていただくための目安として提示している。二つ目の単価についても、学校規模や施設のグレード、特別教室等を総合的にみても単価は変わってくると考える。全国的に見ても自治体間、都道府県によって単価にも差がある。提示した資料は、３つの施設パターンを想定したときに大まかな概算として積算しているものであり理解をいただきたい。
（委員長）事務局の資料は概算での資料であり、校舎建設となったら細かく算出することになる。現状ではパターン１から３までの施設形態において、それぞれどのくらいの差が出るかということを押さえていただきたい。
（委員）パターン２、３では施設を統合した場合の資料であるが、自身の子どもの義務教育の期間が残り４年半のため、この４年半の間に建て替えが進むのかが気になる。校舎を壊して建て替えるまで、どれくらいの期間がかかるのか参考にお聞きしたい。
（総務課長）建設に関する期間であるが、校舎を建て替える前に、まず、どのような学校にしていくかという基本計画を策定（概ね１年）し、その後に基本設計（概ね１年）の作成、その後に実施設計（概ね１年）を経て、実際の工事（校舎の取り壊し、新築工事。概ね３年）に取りかかる。計画から完成までには、およそ６年間の期間を要すると考える。
（委員）一体型校舎建設となった場合、建設期間中に我が子が布中に入学予定である。その場合の生徒たちはどのような形で学ぶのか教えていただきたい。

（総務課長）校舎建設の方法により変わってくる。例えば、建設中は空き教室がある校舎に移る、仮設の校舎を作る等が想定されるが、校舎建設の方法によりどういった対応になるのか分からないため、現時点で明確な説明は難しい。
（委員長）計画を経て設計、建設となるため、本格的に決まってから、いろいろと詰めて行かなければならないものも沢山あり、よろしくお願いしたい。
（委員）パターン３の場合であるが、布小に建てるという前提での見積りであるのかお聞きしたい。
（総務課長）この資料はどこに建設するのかというものでなく、想定される校舎の床面積がこれぐらいになり、想定される床面積の学校を建設すると、概算費用がこれぐらい掛かるというような試算資料である。
（委員長）この後の「校舎の立地条件」の中でも少し関わるものであるので、よろしくお願いしたい。次に４番目「校外学習等時のバスの発着場」について事務局の説明を願う。
（事務局説明）
（委員）布小であるが、林間学校と修学旅行のみ昨年から華蓮厨房の駐車場を借りている。通常の校外学習時は和田前公園まで行って乗車している。
（委員長）布中と同じ場所（和田前公園）の通りに、バスの駐車をする場合もあるということである。それでは、この４番目の項目についてはよろしいか。質問、意見があればお願いしたい。
（委員）バスの件については、子どもたちのスクールバスも学校敷地内に入るようになるのではないかと考える。それには安全面が一番であり、安全な場所に学校を造ることも考えていかなければならない。
（委員長）学校建設については、子どもたちの安全面を考慮した立地場所になると思う。次に５番目の「校舎の立地条件」について議論したい。この議題については、令和４年度第３回の検討委員会の中でも意見が出たところである。現在３カ所に小中学校がそれぞれ建っており、場所の高い低いとか面積が広い狭い等、いろいろあると思う。①は三校そのままのため問題はないと思うが、②、③は小中一体体型の学校を建て替えることについて、意見、質問があればお願いしたい。
（委員）バスを考えた時の交通の安全面では、南小が一番安全で良いと思う。その他のことは、他の委員の意見を伺いたい。

（委員長）以前の検討委員会の中でも話が出たが、布小に入る入口のところは、拡幅となるような話もあった。バスが楽々出入りできるぐらいの幅になるのか等、その辺も関わってくると思うが何か意見があればお願いしたい。
（委員）昨年度布中区三校の見学に参加した。布小校舎の廊下を歩いたら隣の校舎は違う階になっており、高低差があることに気づいた。今後、車椅子の児童や保護者等を考えると、フラットな校舎設計を考えていただきたいと感じたところである。
（委員長）立地的には南小の方がいいということか。
（委員）設置の条件（敷地の高低差からみた場合）としてはそうである。布小、布中の敷地を合わせた方が広く、そちらに校舎を造るとなると、盛土をしないと難しいのではないかと考える。
（委員長）校舎建設時はフラットな場所になるようにというところでの意見であった。
（委員）校舎建設の場所の問題は別として、以前の検討委員会内でも話が出ていた国道 356 号線の歩道の拡幅と、布小に入る道路（信号がある交差点のところ）の拡張計画の話はどのようか。
（総務課長）令和６年度に事業を行う予定で現在も用地買収等を進めている。担当は道路課であり、令和４年度第３回検討委員会での説明のとおりに計画が進んでいる。
（委員）今の説明は国道 356 号線の方か、布小入口の方のどちらか。
（総務課長）布小入口は市道になるため市の道路課の管轄になり、国道 356 号線の方は県の事業となるため別の事業である。
（委員）1 ヶ月くらい前に国道 356 号線の道路で 20 人弱位の方が道路の清掃をしていた。県の方で動いているとかがわかれば報告していただきたい。
（総務課長）県の方は国道 356 号線の歩道拡幅ということで計画しているため、詳細については県に確認し追って報告させていただきたい。
（委員長）国道 356 号線の歩道拡幅工事等については、確認ということでお願いしたい。
（副委員長）５番目の「校舎の立地条件」については、①②③ともに白紙になっている。これについて事務局は答えづらいものか。
（委員長）立地条件についてのメリットデメリット等については何かあるか。

（委員）まず校舎を考える上では安全面が重要である。水害、地震時の避難を考えたときに、ハザードマップがあり重要と思う。校舎の立地を考えるときに話しやすいのではないか。
（委員長）事務局でハザードマップの状況を説明願いたい。
（学校教育課長）市のハザードマップでは、三校の中で特に被害が想定されていないのは、高台にある布小の敷地のみである。それ以外のところは大雨時の洪水に関して危険（水没）なエリアに入っているという状況である。
（委員長）洪水時のハザードマップでは、布小のみが安全ということである。
（委員）ハザードマップでは布小だけが浸水しないことが理解できた。もう一つ、自身が考えているのは交通の安全面である。スクールバスを考えたときに乗降する場所も考えなければならない。どこで乗降し学校に入りやすいかという視点を考える必要がある。学校に入る入口だけでなく、乗降ができ、安全に運転するコースが取れるかということも考えて、どこに学校を建てるかということも考えていかなければならない。
（委員長）立地条件では、子どもたちにとっての安全面を考えたときに、ハザードマップの視点やスクールバスの運行状況に関すること、通学路について検討した上でということになるためよろしくお願いしたい。
（委員）南小敷地内に文化財の建物がある。もし、南小に小中一貫校の校舎を建てるとなると、この文化財の施設を移動することができるものかと思うところである。（事務局追記：当該施設は市教委が所管している文化財管理の施設と思われます。南小とは隣接していますが、敷地は分かれています。）
（委員長）校舎を建設する場合、既存施設の移設等は検討に入ると思われる。
（総務課長）校舎建設時には、当然、そういった施設の移動なども検討すると思う。
（委員長）校舎の立地条件では、安全面を検討していただくということになると思う。道路の拡幅工事も含めて、どのように活用できるのかというところも立地条件の一つに入ってくると思うので、その辺をまた事務局の方で検討し提案していただくことになると思うが、よろしくお願いしたい。
それでは、「その他」の項目について検討をしてきたところである。
これで一通り、３つの施設形態におけるパターンについてのメリットデメリットについて検討したところである。資料の方では意見等をまとめており、ゴシッ

ク体の矢印で示している。この辺も踏まえて再度全体を見ていただき、視点や項目は関係なく、全体を通じて改めて質問や意見を伺えればと思う。
(委員)検討する施設形態に①②③とあり、メリットは良いがデメリットも挙げられている。このデメリットを解消することについて、何か考えられることはないだろうか。例えば、資料１ページ目「学習環境」①のデメリットであるが、この計画を進める上で解消することはできないかと考える。もし、このデメリットがそのままならば、結論は三校一体型になるのでなないかと自身は感じる。各項目でメリットがあればデメリットもあるのは当然だと思う。すべてではないが、そのデメリットを解消する方法はないものかと感じる。これはあくまで自身の感じであり、事務局がどう受け止めるのかはおまかせしたい。
（委員長）検討する施設形態の①②③どの項目でも限らず、デメリットの部分は、現時点で対応できるものはないかという質問であった。
（学校教育課長）各項目の一つ一つのデメリットに対しての改善策は難しい。児童数に関するものについては、先ほどの議論でも出たように、学級間での相互啓発や切磋琢磨がしにくいことである。学級間というのは２学級あって初めてできる部分であり、単学級では切磋琢磨する機会が少なく、教員の指導力向上についても現状では人数が増えないことには解決ができないところである。他に、教職員間の交流や子どもたちの交流については、工夫できる部分もあるとは思う。また、学校間の敷地が離れていることは、移動の時間もあり授業を見に行くにも時間の制限がある。１時間の授業を参観するためにも前後の移動時間があるため、なかなか現時点での改善策というのは難しいところが多いと思う。
（委員）結論を急ぐわけではないが、いろんな意見が出た中でデメリットの解消のみで小中一貫校にもっていくのだという理由づけにされては困る、と考える。デメリットはあって良いと思う。そのデメリットがこうすればうまくいく部分もあるのではないか、または解決できるデメリットがあるのではないかというのが自身の感じたことであり、今の説明も十分に理解するところである。
（委員長）資料の中の別紙教職員の配置数について説明を願いたい
（事務局説明）
（委員長）教員の細かな数値ということで役職に合わせて記載している。それでは、他に全体を通し質問、意見等があればお願いしたい。

（委員）今までこの検討委員会では３つの施設パターンが前提として進めてきたものであるが、そもそも小学校２校を一体にする案がなかったのだろうか、というところを失念していた。自身も過去に設計や企画の段階で廃校をリノベーションしたり、再利用したりして活性化するプロジェクトに関わったことがある。その時の多くのパターンが少子高齢化で小学校２校を統合し１校にする計画であり、残ったもう片方の校舎についても、民間に払い下げし事業として他に活用できる計画案であった。先ほどの概算事業費の説明を聞いても大きな金額がかかることから、建て替えではなく、必要な耐震改修やリノベーションの方策はないものかとも思うところである。ここまで大きな事業コストを三校全てに加えることなく、できる案もあるのではないかと思い、それが議論から除かれたことを確認したい。

（教育長）教育委員会としては小中一貫教育を進めており、検討する施設形態については、分離型のまま小中一教育を進めるのか、隣接する布小布中の校舎を一体型とするのか、三校一体型で小中一貫教育を行っていくのかということで検討したものである。

（委員長）視点としては、小中一貫教育を推進していきたいという教育委員会の方針があり、それがベースにあるというところである。想定される施設形態の①②③で検討してほしいというところである。

（委員）いずれは中学校でも生徒数の減少の問題が必ず出てくると思う。この検討委員会でも意見を述べたが、中学校も一緒に検討した方が良いのではと思っている。近いうちにそのような話も出てくるのでなないかと思う。

（委員長）以前の検討委員会の中でも湖北台中区とか、いろいろ話としては出てきたところである。将来的には中学校の統合もありうるのではないかなというところである。そのときの話としては、布中区で行った場合にこれが市内に広がっていくということは想定として考えていると思う。今後は湖北台中区で東小と西小と湖北台中学校が一緒になるとか、湖北中区で新木小と湖北小と湖北中が一緒になるという流れを作っていき、繋がっていくかもしれないということである。その先陣を切って布中区でモデル校的な扱いとして進めるものである。

（委員）我々が今考えるのは布中区の在り方である。他の学校を考えるのではなく、今最適な布佐地域の教育と子どもたちの学校生活を重点的に考えるべき

だと思う。学校を考えるには、地域のことや防災なども考える必要がある。少し先のことを見据えながら、子どもたちの将来のために方向性を見いだしたい。そうでないと話だけの議論になってしまう。いろいろなメリットデメリットがあるが、ある程度方向性を出さないと話だけで進まないという思いがある。地域に住んでいる方は、そこに学校があった方が良いに決まっている。検討する施設形態についてのメリットデメリットはそれぞれあるが、デメリットもあるがメリットの方が上回っている部分やある程度の妥協点を見いだしながら進めないと、決まらないと思う。
（委員長）最終的には、検討委員会としての提言を教育委員会にあげて、このような方向性で良いかということを提案する形になると思う。メリットデメリットが出てきて当然である。委員の発言のように、デメリットが出てきたらそれを改善していこうというのは、当然議論の中には出てくるだろうし、具体的に対応していかなければならないこともあると思う。
最終的には、想定する施設形態の①②③のどれにしていくかということを提言していく必要がある。次回が議論については最後になると思われる。資料に出されたメリットデメリットを含め、想定する施設形態の①②③について、この委員会でどういう方向性で提言をしていくかという答えを出し、取りまとめて教育委員会に提出する形になると思う。この辺りが次回の議論になってくると思う。それぞれの項目立ての中で出てきたメリットデメリットに関してでも結構だが、意見があればお願いしたい。
本日は、想定する施設形態における、それぞれの視点、各項目についてのメリットデメリットがどのようなものかという視点で意見をいただいた。次回は、これを受け、検討委員会としての方向性の最終的な議論となると思う。次回も積極的な発言をいただきたい。
本日はこれにて終了する。

（以上）
次回開催は 11 月 13 日（月）を予定しています。